

# いしづち

愛媛労災病院広報紙第3巻第7号

(通巻第25号)

2005年7月5日発行

発行人: 病院長 西岡幹夫

## 【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、  
そして地域の人々のために  
信頼される医療を目指します



## 夢のある目標

副院長 友澤尚文

長期間診療に没頭してきた体と脳はまだ現職に順応できていない。慣れない資料に目を通して、自覚を植え付けている段階である。省庁から公布された資料を読むのは苦手であるが「中期目標期間終了時における独立行政法人の組織・業務全般の見直しについて」に再び目を通した。「民間にできることは民間にゆだねる」「労災病院の存在意義を世間に説明できないようでは改廃をいたします」という内容である。5年後には提示された中期目標を達成できたか否か、評価委員会の審査を受けることとなる。これをクリアしたら存在意義ありと納得していただけるのかどうか心配であるが、最低限のハードルとして取り組むしかない。具体的な妙案は浮かんでこない。イチローの言うように、細かいことの積み重ねしかないように思う。医療界には他の業種に比し厚い規制がある。サービス業とはいえ医療は、食料を生産したり、危険から身を守ったり、公害を処理したりすることと同様に、基本的な生命維持活動であるからと思う。娯楽や余暇を楽しむためのサービス産業とは、根の深さに違いがある。診療報酬や薬価など裁量する余地はないが、自由に裁量を発揮できる面もある。企業にしても病院にしても、その醸し出す雰囲気は管理職の影響が大きい。まず良好な風土作りに取り組む必要があると思う。愛媛労災は規模の割に診療科が多く、重石となっているという指摘がある。私見では、紹介に頼れず自力で患者を獲得してきた愛媛労災は、少なくとも今日までは、この多様な診療科の存在が有利に作用したと思う。新居浜市はマーケットの大きさに比して病院が多い。他の病院が力を入れていない

分野に力を入れるのは尤もなことである。しかし、少数の科に選択と集中をして維持するには、この地はマーケットが小さすぎる。過度の集約は線ではなく点の診療になりがちで、波及効果（横のつながり）の欠如から衰退をたどる可能性が高い。さる高名な政治家が派閥分裂の危機に際して警告した「馬糞の川流れ」である。流れていくうちにバラバラとなって消滅してしまうという意味であろう。医師確保の面でも現実的には一部の科に重点補強は困難である。和を保つ上でもバランスある運営に留意すべきと思う。

独立行政法人となって自律的な運営も約束されたと理解している。わかり易い夢のある愛媛労災独自の中期目標を職員に示し、活性化を図ることも目の前の難題を解決する遠いようで近い方策と思う。かねてから抱いていた思いを某新聞紙上で発見した。そのまま引用したい。(夢の共有、平成17年5月19日付け)「国も企業も、成長と繁栄の源泉が人の和にあることは古今東西の真理である。(中略)全社員が共有できる夢を失った企業の凋落は早い。全社員や得意先、顧客すべてに、共有できる夢を提供し続けることこそが経営者の役割である。経営者の夢は言葉や経営方針だけではなく、実際の日々の言動やその一挙手一投足から、社員は敏感に感じ取る。それに共感して人生を掛ける人材がどれだけ集まるかが企業の命運を決する」。

院外向け広報紙として当を得ていない内容となりましたがご容赦願います。病院発展のために少しでも貢献できたら幸いです。

### 地域医療連携懇話会

地域医療連携室 秋岡 裕子

去る6月9日、第2回目の愛媛労災病院地域医療連携懇話会が開催されました。昨年の第1回開催から約1年が経過し、その間に地域医療連携室立ち上げ当初の目標であった、紹介率30%を達成することができました。また、昨年の懇話会にてご指摘を受け、改善したこと等もありました。今回の懇話会は、1年間の成果をお知らせすると共に、今後のより一層の連携強化を目的としています。当日は地域の19医療機関から25名の方々に、お越しいただきました。また、院内からは各診療科の部長クラスの先生方をはじめ、たくさんの方々にご出席いただきました。

懇話会におきましては、昨年と同じく、西岡院長による挨拶、各診療科のPRを含めた院内出席者の自己紹介、そしてご出席いただいた医療機関の皆様のご紹介を行いました。いつも思うことなのですが、患者様を紹介・逆紹介という形で、やり取りする上で、お互いに顔見知りであるということは、本当に大切なことだと実感します。相手を知っているということは、大きな安心感がありますし、何より、より密な情報のやり取りができるはずです。当院が今後力を入れていくことのひとつとして、後方連携の充実(逆紹介の推進)がありますが、そのためには、相手の医療機関のことを知る、また、こちらのことを知ってもらうこ

とが必要不可欠なのではないかと思えます。

紹介に続いて、高橋事務局長による当院の運営状況等の報告がありました。当院の1年間の成果を数字の上からではありますが、多少なりともわかっていただけではないでしょうか。また、高額機器の整備状況一覧も配布いたしましたので、患者様をご紹介いただく際に、参考にしていただければと思います。

懇話会に引き続き、院内の多くの職員を含めた懇親会も開催されました。立食形式ということで、それぞれにより交流を深めていただけたのではないかと思います。今回、ご出席、ご協力いただいた皆様には、大変感謝しております。今後も、地域医療連携室としてより向上していけるよう、努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



### 呼吸器専門外来のご案内

呼吸器外来医師 森 公介

本年の5月より呼吸器専門外来を担当させていただいております。前任の藤田先生同様に、今まで呼吸器を専門に各総合病院で診療してまいりました。

このたび西岡先生・友澤先生のご配慮により呼吸器外来を担当することになりました。西岡先生が香川医大に新任教授として赴任されたころ、私は高松の国家公務員共済高松病院に勤務しており、西岡先生が主催しておられた肝臓疾患研究会に出席させていただきましたが、レベルが高くてさっぱりわかりませんでした。最近のご著書では平易に解説してくださっているので門外漢でもわかりよく勉強になっております。

早期肺がんの診断が私のテーマで、肺がん集検に従事していたころは1カ月3000～5000枚の間接写真の読影と、気管支ファイバーは多いときで年間200～250例を一人でやっておりました(大変なストレスでしたが・・・)。

このたび呼吸器外来を担当させていただくこととなり、「身がひきしまる思い」という感覚を初

めて実感しました。

外来診療以外に、いままでに勤務していた各総合病院で行っていたように、いろいろと企画しています。院内では胸部外科や放射線科の先生がたと連携して内科や循環器科の研修医の先生向きに胸部レントゲンの読影会ができればと思います。また余裕ができれば「健康教室」などに参加させていただき患者様に呼吸器疾患の啓蒙ができればとも考えています。労災病院は施設の性格上塵肺関連では指導的立場にあり、今後この方面へのアプローチも大切ではないかと考えます。

呼吸器外来は月2回で、患者様をお待たせする時間を考慮すると、すべてを呼吸器外来でfollowすることが困難なため、軽症例は内科や循環器の先生方にご手数をおかけすることがあるかと存じますが、何卒よろしくご配慮のほどお願い申し上げます。

本院の呼吸器専門外来では、肺の様々な病気についての不安や、治療に関する、ご本人、ご家族のご相談もお受けしております。

看護週間に地域の皆様との交流をはかって

看護部 山内 弥生

今年15周年を迎えた「看護の日」。

「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに、当院でもふれあい看護体験や入院患者様へのメッセージカードの配布など、様々な活動を繰り広げました。なかでも看護週間の最終日にあたる5月14日の土曜日には、地域の人々との交流を図るためにフジグラン新居浜店において院外イベントを行いました。このイベントも今年で3年目。今回は「働く人々と地域の人々の健康づくり～知っておきたい身体のシグナル。まずは健康チェックから～」をメインテーマに、健康指標の測定と多職種による健康相談を行いました。参加スタッフはすべてボランティアで、看護師のほかに、医師、薬剤師、検査技師、栄養士、理学療法士、事務職員の方々のご協力をいただきました。

このイベントに参加されたお客様は延べ148名であり、この数は年々増加しています。会場準備の段階からお待ちになられている方や、友人から話を聞き駆けつけてこられた方など、イベント開催の間は人の波が途切れることなく多くの方にお立ち寄りいただき、この盛況ぶりには悲鳴を上げるほどでした。

病院とは少し違ったオープンな雰囲気はとても新鮮で、お客様も気軽に立ち寄られていました。また、特に血管年齢と実年齢のギャップが大きかった方は、すぐさま相談コーナー

で熱心に健康相談をされており、健康に対する関心の高さが伺えました。「次はいつ行うのですか？」と尋ねられる方もおり、地域の人々のニーズを肌で実感することができた有意義な一日でした。

最後に、今年も無事に院外イベントを開催できましたのは、院内ボランティアの皆様のおかげです。お忙しい中、ご協力いただきましてありがとうございました。そして、今後ともよろしくお願いいたします。



出前講座を終えて

リハビリテーション科 (OT) 小川 進太郎

去る6月6日(月)、「新居浜市生涯学習まちづくり市民講座」の一環として「腰痛・膝痛予防のための日常生活動作」というタイトルで講習を行いました。場所は多喜浜公民館で、命の貯蓄体操のメンバー15名を対象に行いました。今回、当院の出前講座の一番手ということもあり少し緊張して臨んだのですが、終始参加者のパワーに圧倒され、かなり和んだ雰囲気で行うことができました。内容としては、まず初めにパンフレットを配り腰痛・膝痛のメカニズムや日常生活上の注



意点を簡単に説明し、その後ストレッチ・筋力強化の方法を実技を交えて行いました。特に腰痛というのは日常よく起こり得るもので、実際参加者に事前にアンケートを行ったところ約半数以上の方が今現在痛みがあると答えられました。そのわけあつてか説明の途中にも次々と質問の声があがり、当初1時間弱で終わる予定が少しオーバーしてしまう結果となりました。

腰痛を予防するためにはまず姿勢を良くすることが基本です。立つ、座る、寝るなどの姿勢だけでなく、物を持つ、着替えをする、家事をするなど日常生活の中で腰に負担をかける方法を身に付けることが大切です。また日頃の運動不足により体力が低下している人は、腰痛体操などで身体を動かすのも効果的です。もちろん膝痛も同様に考えられます。特に女性の方は高齢になるにつれ下肢筋力の低下とともに膝の軟部組織が弱くなり、それがひどくなれば変形性膝関節症(Ｏ脚)に至ることもあります。ちなみに講習の参加者では膝痛のある方は2名しかいませんでしたが、今後それを予防していくということでは役に立てたのではないかと考えています。

今後は、他の部署の方々も次々と出前講座に行かれるということなので、ぜひ皆さんにも頑張ってください、地域市民のために貢献していただけたらと思います。

### 第7回 TQM 大会を終えて

胸部心臓血管外科医師 林 雅 規

さる6月10日に第7回 TQM 大会が開催され、活発なご討論をまじえながら無事に終わることができました。これもひとえにご出席いただいた多くの関係者のご協力によるものでございます。

実は私が TQM (total quality management) の意味を知ったのは、開催1カ月前でした。私が調べた範囲では、この言葉が初めて登場したのは1980年アメリカで、当初は大きな企業での経営戦略だったそうです。当時のアメリカは、製品の発案、生産、販売 (アフターケア) はそれぞれ連携の薄い企業が行っていたため、それらを統合した管理が必要になり行われたそうです。現在では医療界でもその重要性が認識されており、すでに3年前より TQM を導入し、多くのスタッフが大会に出席している当院の方針には強く感銘いたしました。

さて、今回の TQM 大会の講演は SPD から始まり、地域医療、抗生剤の使用法、NST、災害対策まで行われました。私には普段聞き慣れない言葉もあったのですが、講演は広い範囲で偏りもなく、内容も分かりやすく丁寧でした。多くの職種の方々が参加して頂く大会が非常に有意義であることと、こうした大会を行うことの重要性を改めて知りました。お互いが十分にコミュニケーションを取れない総合病院に

とって、こうした大会で得られる情報は非常に大きかったと思われま

す。もし、今回の大会の反省点をあげるとするならば、大会が少し硬くなりすぎてしまっていることではないでしょうか。この大会は学会ではなく、身内の間での意見交換が目的です。私はもっとリラックスし、普段聞けないようなくだらないことも、活発に発言して良いと感じました。

多くの職種の方々とより多くの意見交換を行い、病院自体が同方向性の目的を持つより良い医療へと向かうため、今後とも TQM 大会を継続していければと存じます。これからも TQM 大会へのご協力をよろしく申し上げます。



### 歯科からのお知らせ5

- 磨く部位に応じた歯ブラシの種類と磨き方について -  
歯科衛生士 永 易 啓 子

#### < 歯間ブラシ >

歯間ブラシは歯と歯の間を磨く専用のブラシで、SSSからLLサイズ (右図) まで、いろいろな太さのサイズがあります。歯と歯の間のすき間に合わせてサイズを選びます。歯と歯の間にさし込み、5~10回位出し入れします。歯の表側からだけでなく、出来れば裏側からも磨く様にすればより効果があります (下図)。



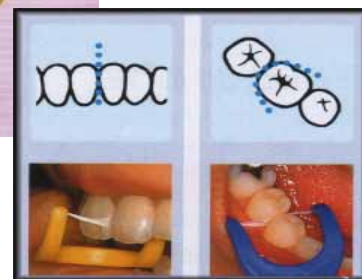
#### < デンタルフロス・糸ようじ >

デンタルフロスや糸ようじは歯間ブラシが入らないよ

うな歯と歯の間の汚れをとります (デンタルフロスには糸を引っ張りだして肘くらいまでの長さで切り、糸の両端を



両手の指にまきつけて使うタイプのものもあります)。



#### < ワンタフトブラシ >

ワンタフトブラシは歯並びの悪いところに使います。歯と歯が重なりあっているような狭いところや、一番奥の歯の後ろの面など普通の歯ブラシでは届きにくい場所を磨くのに便利です。



### 「ダーツクラブ結成。クラブ員募集！！」

脳神経外科医師 篠原直樹

最近、若者の間でブームとなっているダーツ、発祥の地はイギリス。

このダーツをボードに向かって投げるだけのシンプルな競技は、年齢、性別を問わず、広く日本にも普及し始めてきました。ルールは簡単！ パワーもいりません。

- スローインラインからボードまでの距離 237cm。
- ボード中心までの高さ 173cm。
- ダーツの重さ通常 20 グラム前後。

道具（といってもダーツとボードしかありませんが）は、すべてこちらで用意いたしております。ダーツに興味のある方、狙ったところへ投げることが好きな方、最近、スポーツでドキドキした経験をお忘れの方は、ぜひ楽しく、ちよつと熱い時間を一緒に過ごしてみませんか？

愛媛労災病院でも7月からダーツクラブを結成します。只今、クラブ員の募集を行っております！！

みなで、ダーツを楽しみましょう！！

連絡は、脳神経外科 篠原（写真左端）まで。



### 私の仕事

眼科部長 宮本 和久

外来と手術に追われる相変わらずの生活を送っていますが、最近はじめた二つの仕事についてお話をさせていただきます。まずひとつめは一昨年からは愛媛アイバンクの理事の仕事をしていただいています。

アイバンクは全国に60以上ありネットワーク活動を行いながら目の見えない方に角膜を提供しておりますが、他の臓器と同様に深刻な提供者不足の状況が続いています。例えば今日当院の眼科で角膜移植の申し込みをしていただき、順番待ちの順番に加わっていただくと「はい、じゃ手術は6年～7年待ちになりますね」といった具合です。

実際昨年度1年間に愛媛県東予地区で提供していただいた方は一人だけでした（それでも本当にありがたいことです...）。当院で施行している角膜移植も、愛媛県アイバンクからだけでなく、他都道府県アイバンクへ寄せられたご好意や海外提供角膜によるところが非常に大きいですが、今後一層の啓蒙、普及活動を行って愛媛県のアイバンク活動、角膜移植をとりまく環境改善に努力していく所存です。もうひとつは労働者健康福祉機構が重点項目としている勤労者医療の中核的役割としての労災疾病等12分野医学研究課題のうち、眼科の担当項目として感覚器障害研究センターが大阪労災病院に設置され、その分担研究者として任命されました。糖尿病網膜症という、場合によっては非常に大きな視力後遺障害を残す可能性のある疾患について、高いレベルでのQuality of Visionの回復、維持を目指した治療法、再発防止法の研究開発を大阪、関西、愛媛労災病院の3施設のデータ集積、共同研究を数年間にわたって行うのが目的です。

その設立に先立ち機構本部の方々や他の病院の先生方と何度か会合などでお話しする機会がありました。そこで非常に強く感じたことは、各々の労災病院は単なる臨床病院としての技術や医療の提供が求められるのではないこと、勤労者医療という大きな政策テーマにつき結果をだし、情報発信を行うこと、特色をだしながら高度医療を行い各地域の基幹病院となることを全員が意識して実践しようとしていることでした。

小生も微力ながらもできるだけ協力していきたいというのが、最近の所感です。

### 愛媛労災病院市民公開講座「健康教室」予定表

会場：愛媛労災病院南館2階・大会議室

時間：15：00～16：30

回数	開催年月日	演 題	講 師
第23回	H17.07.21 木曜日	下肢の血管の病気	心臓血管外科医師 他
第24回	H17.08.18 木曜日	排尿の障害	泌尿器科医師 他
第25回	H17.09.15 木曜日	胆石	外科医師 他
第26回	H17.10.20 木曜日	インフルエンザとその予防	小児科医師 他
第27回	H17.11.17 木曜日	肩こり	整形外科医師 作業療法士
第28回	H17.12.08 木曜日	うつ病	精神科医師 薬剤師

☆庶務課からのお知らせ

— 人事異動 —

【退職】	6月30日付		
	臨床検査技師	高橋	真
【採用】	6月13日付		
	看護助手(4号嘱託)	石川	直美
	7月1日付		
	臨床検査技師(4号嘱託)	藤原	百々子
	看護師(4号嘱託)	村瀬	範子
【補職】	7月1日付		
	泌尿器科部長	清水	公治

【新しいスタッフの紹介】

内科医師 松尾 博司

5年前、1年間お世話になりました。今日、再び及川先生の後任で、赴任して参りました。よろしくお願ひします。官舎には住まず、外にアパートを借りていますが、1階なので、台風で水浸ししないかどうか心配です。



☆七夕祭り開催について

- ◎ 七夕飾り
- 期 間 平成17年7月1日(金)～8日(金)
- 場 所 愛媛労災病院1階玄関ホール
- ◎ 夕暮れコンサート
- 日 時 平成17年7月6日(水)16時～17時
- 場 所 愛媛労災病院1階薬局前ホール
- 内 容 愛媛労災病院OB有志によるマンドリン演奏と合唱

地域医療連携室より

6月9日に第2回地域医療連携懇話会が開催されました。ご出席いただきました皆様、本当にありがとうございました。詳細につきましては、第2面をご覧くださいと思います。

さて、翌日の10日、院内で開催されましたTQM大会において、地域医療連携室として、初めて発表をさせていただきました。「地域医療連携の現状」と題して、当院の医療連携の現状とこれからの課題について発表したのですが、改めて、今何をしていかなければならないかを確認できるように思います。医療連携は大きく分けて、前方連携と後方連携がありますが、当院は後方連携の取り組みが少し遅れています。これを進めていくには、院内における情報の共有等、様々な課題があります。具体的に何からしていくべきか、今は手探り状態ですが、一歩でも前進出来るよう、努力して参りたいと思います。どうぞご協力よろしくお願ひいたします。

(地域医療連携室 秋岡)

勤労者予防医療部からのお知らせ

「リハ運動倶楽部」

リハ科では、勤労者予防医療活動の一環として、働く人々の健康保持・増進(特に生活習慣病の予防)を目的に、昨年11月に『運動倶楽部』を開設しました。ご存知のとおり、生活習慣病は自覚症状がないまま徐々に進行し、脳卒中や心筋梗塞などの重篤な疾患を生じる引き金となります。今元気に過ごしているあなたも、もしかすると…なんてことになる前に!仕事帰りにちょこっと寄り道して、一緒に気持ちのいい汗を流しませんか?

運動内容としては、ストレッチング、エルゴメーターなどが中心で、他に個々の希望があれば応じます。検診で指摘を受けた方はもちろん!運動不足の方!知らない間に体重が増えてしまった方!ストレス発散したい方!お腹のたるみが気になる方!運動したいという方はどなたでも歓迎します。健康な美しい身体作りをしていきましょう。

興味のある方は、是非お気軽にリハ科スタッフまでお尋ねください。お待ちしております。



た た の に 観 奪 花 ら 郷 先  
 。 母 入 入 日 奪 花 ら 郷 先  
 の 入 入 日 奪 花 ら 郷 先  
 姿 の 入 日 奪 花 ら 郷 先  
 と た の 日 奪 花 ら 郷 先  
 だ 銘 の は 奪 花 ら 郷 先  
 ぶ 仙 青 い 奪 花 ら 郷 先  
 り 着 に っ 。 奪 花 ら 郷 先  
 ま 着 白 も 私 の 奪 花 ら 郷 先  
 し い 縞 お の 参 奪 花 ら 郷 先

今月の一句  
白葵

母と過ごせし  
夢の日々  
みきを

編集後記

広報紙「いしづち」も創刊3年目に突入しました。この間色々な事があり、色々な記事を掲載してきましたが、皆さんの評価はどうでしょうか?

ふり返ると創刊にあたって皆であれこれ考えた頃を思い出します。とにかく「コンセプト」をしっかりと定めようということで企画書を作り面割・体裁等を決めていきました。当時の企画書には広報紙の目的として、「院内各部署の情報交換の場」「重

点事項の徹底のため」「意見交換・発表の場」「外部への宣伝」「OB等とのコミュニケーション」等が挙げられています。これらの目的に十分叶うような広報紙になれば、病院の目指している目標に少なからず間接的にでも貢献できるのではないかと思います。でも、実際はどうなのでしょう?どの程度広報紙は認知されているのでしょうか?その辺も含めてそろそろ皆さんに評価(アンケート)してもらおう時期かななどと考えております(Q)。

広報紙編集メンバー：病院長(西岡幹夫)、副院長(友澤尚文)、医局(宮本和久、稲見康司、木戸健司)、看護部(峰平一二美、山根千春)、庶務課(佐藤 求、稲富小百合)、医事課(秋岡裕子)、薬剤部(松下香織)、放射線科(正岡憲治)、検査科(近藤雅子)、リハ科(小川進太郎)、栄養管理室(清水 亮)